



水戸岡 鋭治 デザイナー
イラストレーター

乗り心地がよくデザインも個性的と、JR九州の鉄道車両の評判が東京にも聞こえ始めたのは、1990年代後半あたりからだろうか。そして、今年春、全線開通した九州新幹線「つばめ」の内装にわたるデザインが、その評価をさらに決定づけたといえよう。それら一連のプロジェクトを手がけてきた水戸岡鋭治さんが、デザイナー・オブ・ジ・イヤールと称される「2011毎日デザイン賞」を受賞した。地域社会の風土や環境、伝統文化、人々の暮らしとの結び付きに傾注してきた氏の活動の軌跡は、改めて公共性とは何かが問われ始めた東日本大震災後の今、デザインのあり方にもさまざまな示唆を与えてくれそうである。

—高校入学前から、デザインを生涯の仕事と決められていたとか。

—高校入学前から、デザインを生涯の仕事と決められていたとか。

—そのJR九州との仕事に際して、何を念頭に置かれていたのでしょうか。

—高校入学前から、デザインを生涯の仕事と決められていたとか。



九州新幹線800系

—高校入学前から、デザインを生涯の仕事と決められていたとか。

—高校入学前から、デザインを生涯の仕事と決められていたとか。

—高校入学前から、デザインを生涯の仕事と決められていたとか。

—高校入学前から、デザインを生涯の仕事と決められていたとか。

—高校入学前から、デザインを生涯の仕事と決められていたとか。